

本案は、JICAからの依頼で、国際理解教育／開発教育の実践経験のある学校現場の先生に、「各テーマ約10分の映像教材を利用して1時限で実践」という設定で作成いただいた授業案です。内容や時間配分についてはあくまで参考として、学年や学級や教科、授業の目的等の状況に合わせて、適宜ご活用ください。

イスラムについての学習指導案

群馬県立桐生女子高等学校
指導者 田中隆志

- 1 対象 高校生
- 2 現行学習指導要領（高校）との関連性
 - 【地理A】(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察 イ 世界の生活・文化の多様性
 - 【地理B】(3) 現代世界の地誌的な考察
 - 【世界史A】(2) 世界の一体化と日本 ア ユーラシアの諸文明
 - 【世界史B】(3) 諸地域世界の交流と再編 ア イスラム世界の形成と拡大
 - 【日本史A】(3) 現代の日本と世界 ア 現代日本の政治と国際社会、ウ 現代からの探求
 - 【日本史B】(6) 現代の日本と世界 ア 現代日本の政治と国際社会、ウ 歴史の論述
 - 【現代社会】(1) 私たちの生きる社会
 - 【現代社会】(2) 現代社会と人間としての在り方生き方 ウ 個人の尊重と法の支配、オ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割
 - 【現代社会】(3) 共に生きる社会を目指して
 - 【倫理】(2) 人間としての在り方生き方 ア 人間としての自覚、イ 国際社会に生きる日本人としての自覚
 - 【政治経済】(1) 現代の政治 イ 現代の国際政治
 - (3) 現代社会の諸課題 イ 国際社会の政治や経済の諸課題
 - 【総合的な学習の時間】

3 単元の目標

- 1 イスラム過激派によるテロ事件を背景に、「危険、テロ、怖い」といった短絡的イメージを持たれ、価値観や生活習慣について表面的な異質性が強調される「イスラム」が、他の宗教と倫理的・道徳的な面での共通性もみられる価値観をもつことを認識させ、相違を認めた上で共存していくことの重要性に気付かせる（地理A学習指導要領より）。
- 2 近年、世界全体でイスラム人口が急増していることから、日本とイスラムのかかわりが強くなっていること。互いを尊重し、相違を認めた上で共存する新たな社会の在り方を創造することが求められていることを認識させる（地理A学習指導要領より）。
- 3 イスラムに対して欧米諸国や日本などで、差別と排斥の動きと共存の動きの両面が見られる現実を知る。そうした中で互いを尊重し、相違を認めた上で共存する新たな社会の在り方をどのように創造していくのか、生徒自身に考察させる。

4 展開 (50分)

段階	学習活動及び学習内容（生徒の活動）	指導上の留意点	教材
導入 8分	1 イスラムとは何か ・「イスラム」という言葉を聞いて思いつくものをグループで話し合って発表する。 【想定される発表】 ・ムハンマド、クルアーン（コーラン）、豚肉を食べないトルコ（等イスラム教を信仰する国）、ケバブ、顔を隠したり何かかぶっている、テロ、危険、こわい、IS（イスラム国）、（特に関心がなく、印象等ない）	・4～6人のグループ学習を行うことを確認。 ・言葉、色、雰囲気、知っているもの、印象、またイスラム教徒の人に会ったこと、話したことがある人がいるかを聞き、いる場合はその印象も含め、グループ内で意見を出すように指示する。 ・各グループに付箋紙を配布し、そこに意見を書かせてもよい。 ・発表で「怖い、危険」などが上がった場合は、直接知ることなく、一面的なマイナスのイメージだけで、同じグループの人を「危険」「あやしい」と判断することをどう思うか問いかける。 ・本時は、イスラムとの関係を学ぶための授業であることを告げる。	付箋紙

<p>本論① 10分</p>	<p>2 イスラムと日本の互いの相違と共通性</p> <p>(1) 【映像①イスラムの概要 (3:25)】を視聴する。</p> <p>(2) グループで、イスラムの生活と宗教のかかわりについて、自分たちにとって異質と感ずるもの、共感できると感ずたものを出し合い、結果をまとめ発表する。</p> <p>【想定される発表】</p> <p>○異質なものと感じるもの (…生活習慣・慣習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メッカの巡礼、一日5回の礼拝といった絶対的な信仰 ・アルコールと豚肉を禁忌とするハラール料理 ・ラマダン (断食月) ・女性の服装 <p>○共感できるもの (…倫理・道徳)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食への感謝の気持ち。 ・困った者、貧しい者を思いやる慈悲の気持ち。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラムの生活と宗教のかかわりについて、自分たちからみて異質なものを、共感できると感ずたものに注目しつつ映像①を視聴させる。 ・異質に感ずるものについては、ぱっとみて表面的に違うなと思うもの、共感については自分も同様に思うものというように補足してもよい。 ・発表後、異文化理解のためには、表面的に異質なものをばかり注目するのではなく、自分たちと共通なものを見つけ、共感することが必要だと示す。 	
<p>本論② 7分</p>	<p>3 イスラムとの共存</p> <p>(1) 【映像②世界各地のイスラム (0:57)】を視聴する。</p> <p>(2) 異なる価値観を持つ人々を尊重し共存していくことは重要であるが、昨今特にイスラム教徒との共存が重要になってきている背景を、映像視聴後、グループで話し合い発表する。</p> <p>【想定される発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、世界各地でイスラム人口が増大している。そのため今後、自分たちと接点が増えることも予想できることなどから、共存を探る必要がある。 ・イスラム最大の人口国であるインドネシアをはじめ、日本との経済的結びつきの強いアジア諸国に、イスラム人口が多い。日本は、これらの国々と観光などを通し相互交流する機会も多いので、共存は必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、日本でも世界でも、イスラム教徒をはじめ、様々な価値観を持つ人々を尊重して生きていくことが重要性を増してきている理由を考えながら、映像②を視聴させる。 ・発表後、2100年には宗教人口においてイスラムがキリストを上回り最大になると予想されること、2020年東京オリンピックでも多くのイスラム観光客を受け入れると想定されることから、今のうちから共存・共生のために準備 (知ることや、考えること) が必要であることを示す。 	
<p>本論③ 10分</p>	<p>4 イスラムの排斥</p> <p>(1) 【映像③差別・排斥されるイスラム教徒 (1:01)】を視聴する。</p> <p>(2) 欧米など一部のひと々で、イスラムに対する強い差別・排斥の動きが起きていることについて、その理由を映像視聴後、グループで話し合い、発表する。</p> <p>【想定される発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスラム過激派をうたったテロ事件を背景に、イスラム全体を過激派と同一視する偏見が一部で広がっているため。 ・イスラム系の難民が欧米に流入しているため、コミュニティで反発、動揺が広がっているため。 <p>(3) 政治状況の異なる日本では、イスラムに対しての差別・排斥があるか、グループで話し合い、発表する。</p> <p>【想定される発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・差別はないと思うが、イスラム女性の服装、豚肉の禁忌などに対する無理解はあると思う。 ・IS(イスラム国)のテロ事件発生以来、危険、こわいという偏見はあると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米など一部のひと々で現在、イスラムに対する強い差別・排斥の動きが起きていることについて、理由を映像③を視聴し考えさせる。 ・発表後、欧米とは状況が異なる日本では、イスラムに対する差別、排斥があるか、グループで考えさせる。 ・発表後、程度の差こそあれ、表面的な異質さに対しての偏見はありえることを指摘する。 	

<p>本論④ 10分</p>	<p>5 イスラムとの共生（多様な価値観との共生）</p> <p>(1) 【映像④日本に暮らすイスラム教徒 (3:42)】を視聴する。</p> <p>(2) 映像視聴後、グループで、今後、日本ではイスラムの受け入れに際して、どのような対応・配慮・対策が必要になるのか具体的に話し合い、まとめ、発表する。</p> <p>【想定される発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・差別をしたり、偏見を持つことがないよう、学校や職場などで、「イスラム」についてより知るための取り組みを行う。 ・地域や行政が、ハラルメニューを出す店舗や礼拝所の普及に積極的に支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、日本では、イスラムの受け入れに際して、どのような対応・配慮・対策が必要になるのか具体的に考えながら映像を視聴するように指示を出す。 	
<p>まとめ 3分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化により異文化理解が重要なのだということを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化により、様々な国や地域の人々と接する機会が増える中、イスラムに限らず海外の人々と接する場合は、表面的に異質な部分だけを見るのではなく共感できる所を見つけ、相手の立場にたって共存の方法を考える必要があることを示す。 	

5 評価の観点

- ① 関心・意欲・態度
- ② 思考・判断
- ③ 技能・表現
- ④ 知識・理解

①	グループ内の話し合いに積極的に参加し、発表することができたか。
②	教師の提示資料に対して、的確な考察をすることができたか。
③	自分の考察結果を、的確な表現で発表することができたか。
④	イスラムという異文化理解の視点が理解できたか。

6 関連リンク

- ・日本ムスリム協会
<http://www.gakkai.ac/islamkyokai/>
- ・東京ジャーミイ
<http://tokyocamii.org/ja/>
- ・かながわ国際交流財団 HP（イスラームのこどもを理解するために）
<http://www.kifjp.org/shuppan/guidebook>

* 本映像教材を用いる前後に活用できる、「宗教と食生活」について教える授業実践例とその教材

- ・開発教育協会（DEAR）「いただきます（『写真で学ぼう！地球の食卓 学習プラン10』より）」

<http://www.dear.or.jp/case/menu10.html>

http://www.dear.or.jp/book/book01_hungryplanet.html